

北海道大学医学部は2019年
創立100周年をむかえました

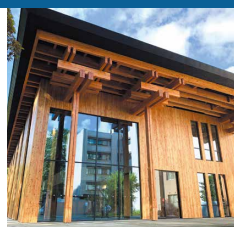


北海道大学

大学院医学院 博士課程案内

HOKKAIDO UNIVERSITY
Graduate School of Medicine Doctoral Program

2023



INDEX

■ 理念・目標／アドミSSION・ポリシー	1
■ 医学院長の挨拶	
■ 医学院 講座・教室	2
■ 博士課程の概要	3
・ コース案内	
・ プログラム紹介	5
研究者養成プログラム (MD-PhDコース)	
CLARCプログラム	
MBA特別コース	
・ 各種インフォメーション	7
博士課程に入るには	
顕彰・奨学金制度等について	
■ 国際交流	8
■ 修了後の進路	9
■ 施設紹介	10
■ マップ／交通案内	11

理念・目標／アドミッション・ポリシー

■医学院の理念

世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献します。

■医学院の教育、研究目標

本医学院は、医学・生命科学に関する高度な知識と研究能力を備え、社会の要請に応える高い見識を備えた人材を育成します。また、基幹総合大学として国際レベルの研究を推進し、知のフロンティアを切り拓き人類の福祉に貢献します。

■アドミッション・ポリシー（求める学生像）

医学院では次のような学生を求めています

- ・生命現象の解明、疾病の克服、人類の健康の増進に向けて真摯に研究に取り組むことのできる人
- ・知的好奇心に富み、論理的な分析力、粘り強い行動力や協調性を有し、医学領域各分野において国際的なリーダーとして活躍できる人
- ・入学前に外国語（英語）の基礎的読解能力と作文能力を身につけている人

挨拶



北海道大学大学院医学院長

畠山 鎮次
HATAKEYAMA Shigetsugu

北海道大学大学院医学院は、理念として、「世界をリードする先進的医学研究の推進、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成による人類の健康と福祉へ貢献する」ことを掲げ、「医学・生命科学に関する高度な知識と研究能力を備え、社会の要請に応える高い見識を備えた人材を育成する」ことを教育目標としています。

博士課程は、1専攻3コース制であり、各コースの専門分野の枠を超えた教育の提供に重点をおくとともに、各コースの充実した高い専門性が担保されるカリキュラムが遂行されております。将来の医学研究者や研究医を育成する「基盤医学コース」、社会医学及び公衆衛生行政分野で活躍する人材を育成する「社会医学コース」、高度な臨床研究を遂行する人材を育成する「臨床医学コース」の3つのコースで教育が実践されております。

本学院では、減少が懸念されている「医師免許」を有した基礎医学研究者・教育者を、早期に育成するため、平成21年度（2009年）より医学部医学科学生を対象として「MD-PhDコース」を導入いたしました。このコースでは、医学部6年生から大学院博士課程の授業科目を履修することができ、終了要件を満たせば大学院を3年間で短縮修了することができます。さらに、平成25年度（2013年）からは、新たに「CLARCプログラム」を開始することで、医師臨床研修の2年目に大学院に入学し、臨床研修と夜間開講の大学院の科目取得により、早期の大学院入学を可能にするプログラムが用意され、一部の期間の「臨床研修」と「大学院での学修」の重複が可能となり、研究医を目指す臨床医には魅力的な制度として機能しております。令和4年度（2022年）から、「MD-MBAコース」を設置いたしました。このコースでは1年間の重複期間を設けることにより、最短5年で医学博士と経営学修士を同時に取得できます。

本学院で最先端の医学研究を学ぶ学生は、優れた科学者の一員として、崇高な倫理観のもとで、創造性の高い知の実践や諸課題の解決に主体的に取り組み、社会からの要請に貢献することが求められています。これまで北海道大学大学院医学院は、入学した学生の期待に十分応える能力・システムを準備してきました。未来の医学および医療を支える大志のある学生諸君の入学を歓迎いたします。

令和5年4月

医学院で学生の受け入れが可能な教室を紹介します。

（令和5年5月1日現在）

講 座		教 室		
【医学専攻】				
生理系	生化学	●分子生物学** ●医化学		
	解剖学	●解剖発生学** ●組織細胞学		
	生理学	●細胞生理学 ●神経生理学		
	薬理学	●神経薬理学 ●細胞薬理学		
病理系	病理学	●統合病理学 ●腫瘍病理学 ■分子診断病理学		
	微生物学免疫学	●免疫学 ●病原微生物学		
社会医学系	社会医学	●衛生学 ●公衆衛生学 ●法医学 ●医療政策評価学** ●医学統計学 ●医学教育・総合診療医学 ■レギュラトリーサイエンス** ■先進医療マネジメント学** ■医療安全管理学 ■ヘルスデータサイエンス ●医薬品医療機器評価学*** ■臨床遺伝学・医療倫理学		
内科系	内科学	●呼吸器内科学 ●免疫・代謝内科学 ●消化器内科学 ●循環病態内科学 ●腫瘍内科学 ●血液内科学 ★健康管理医学 ■がんゲノム医療学		
	放射線科学	●放射線治療学 ●画像診断学 ●放射線医学総合研究***		
外科系	外科学	●消化器外科学I ●消化器外科学II ●腎泌尿器外科学 ●心臓血管外科学 ■乳腺外科学 ■呼吸器外科学		
	侵襲制御医学	●麻酔・周術期医学** ●救急医学		
専門医学系	機能再生医学	●整形外科 ●形成外科学 ■リハビリテーション医学 ■スポーツ医科学		
	生殖・発達医学	●小児科学 ●産婦人科学		
	感覚器病学	●皮膚科学 ●耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 ●眼科学		
	神経病態学	●精神医学 ●脳神経外科学 ●神経内科学		
連携医学系	医生物学	●神経生物学 ●人類進化学**		
	免疫科学	▶免疫生物学 ▶分子神経免疫学 ▶生命分子機構		
	癌病態学	▶幹細胞生物学 ▶がん制御学		
	臨床系連携	●連携講座施設（各医療機関）		

* 連携分野
** 令和6年度の学生募集は予定していません
○ 医学研究院所属の教員が担当しております
□ 北海道大学病院所属の教員が担当しております
☆ 保健センター所属の教員が担当しております
▶ 遺伝子病制御研究所属の教員が担当しております

コース案内

基盤医学 コース

医学・生命科学領域での研究者および教育者の育成を目的とするコース

将来、研究者として自立できるだけの幅広い専門知識と研究に必要な実験のデザインなどの研究手法や研究遂行能力を修得します。さらに専門的知識を学際的な医学・生命科学研究に活用・応用する能力を培います。

臨床医学 コース

優れた臨床技術と研究能力を兼ね備えた臨床医等の育成を目的とするコース

モデル動物や細胞を用いた従来の基礎医学研究手法による研究ではなく、人を対象とした臨床医学研究遂行能力を修得します。大学病院で診ることのできない症例や高度で専門的な診断・検査・治療を行っている特色ある医療機関に設置する「臨床系連携講座」で、専任教員と第一線の臨床医である連携講座教員による複数指導体制の下、理論と実践を融合した臨床医学研究を行うことも可能です。

社会医学 コース

地域社会や国際的なレベルの健康・安全の維持・向上に

幅広い知識と高い技能を持って取り組むことのできる人材の育成を目的とするコース

生物学、生命科学的アプローチとは異なる社会医学的、予防医学的視点から、研究倫理、統計学の基礎と応用、医療情報学、EBM（エビデンスに基づく医療）などの社会医学研究法を修得した上で、公衆衛生学や予防医学分野における研究手法や研究遂行能力を培います。

コース選択制度

医学院担当教員がすべての学生の指導・教育に参画できる体制である単一専攻制（医学専攻のみ）を導入し、社会の多様なニーズに対応した目的別のコース制による融合教育を行っています。

標準履修期間：4年間

- 短縮修了：インパクトファクターのある英文学術雑誌に掲載の英語基礎論文2編以上（第一著者）で、履修年限を最大1年間短縮可能です（他に要件あり）。
- 長期履修：社会人の場合、4年分の授業料で最大6年間在学可能です。

中間審査

3年次の最初に中間審査を行い、審査委員による進行状況のチェックを受けます。

修了要件

- ①学位論文の提出
- ②インパクトファクターのある英文学術雑誌等に掲載または掲載予定の英語基礎論文1編（申請者が第一著者となっているもの）
- ③所定の単位30単位以上の修得

大学院臨床系連携講座

大学院臨床系連携講座は、博士課程臨床医学コース選択者を対象に、臨床医学研究の展開を図ることを目的として、札幌市内15、道内13の病院と医療機関に設置されています（令和5年4月現在）。

大学病院で診ることのできない患者情報の収集や、高度かつ専門的な診断・検査・治療を行う特色ある医療機関において、第一線で活躍する臨床医から研究指導を受け、併せて専任教員による複数指導体制のもと理論と実践を融合した教育を展開しています。

なお、臨床医学コースの研究内容は、大学病院あるいは連携講座の設置されている医療機関での診療を通じて得られた臨床検体、臨床情報の解析が含まれていることを前提にするものです。

●臨床系連携講座が設置されている医療機関（名称）計28

【札幌市内】

NTT東日本札幌病院／柏葉脳神経外科病院／札幌麻生脳神経外科病院
札幌厚生病院／さっぽろ神経内科病院／札幌北楡病院／市立札幌病院
手稲溪仁会病院／斗南病院／北海道医療センター／北海道がんセンター
北海道整形外科記念病院／北海道脳神経外科記念病院
北祐会北海道脳神経内科病院／JCHO北海道病院

【北海道内】

旭川赤十字病院／えにわ病院／江別病院
小樽市立病院／帯広厚生病院／釧路ろうさい病院
市立釧路総合病院／市立函館病院／苫小牧市立病院
函館整形外科クリニック／函館中央病院
国立病院機構函館病院／北海道せき損センター

MESSAGE

コース在籍者からのメッセージ

病理学教室から臨床へ

基盤医学コース／腫瘍病理学教室（令和4年度入学）

伊勢 昂生（いせ こうき）

私は、学部4年の頃に病理診断の現場を見て診断病理学の面白さを感じたことから、病理医の道を選びました。病理学は奥深く、サイエンスの進歩やNGSなどの新技術の登場とともに、腫瘍をはじめとする疾患の病理分類も日々新しく改訂され続けています。そこで初期臨床研修と並行して大学院博士課程に進学して、最新のサイエンスを学び、分子病理学的技法に触れることは病理医のキャリアでとても貴重な時間になると考えました。腫瘍病理学教室では最新の研究手法を学び、病理学の得意な空間的解析などの手法を用いて臨床に還元できる知見を得られるように研究を進めていきたいと思っています。また教室に関連する臨床医や理系・情報系の科学者など多彩な研究者から刺激を得られるのも魅力です。



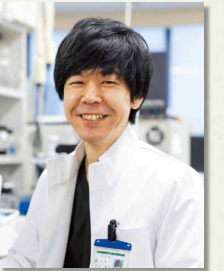
より良い治療法の開発を目指して

臨床医学コース／小児科学教室（令和2年度入学）

白石 真大（しらいし まさひろ）

医師として小児科、特に小児循環器領域の臨床業務に従事していました。日常診療の中で現在の治療法の課題や限界に直面するうちに、より良い治療法の開発に貢献したいという気持ちが高まり、臨床現場を離れて博士課程に進学しました。

心筋幹細胞移植療法は心不全に対する治療選択肢となる可能性があります。臨床応用に向けては治療効果を含め多くの課題が残されています。治療効果の向上に向けて、小児科は薬学部薬剤分子設計学研究室と連携して研究を進めています。私のテーマは、ミトコンドリア活性化心筋幹細胞を用いた細胞移植療法の開発です。皆さんと一緒により良い治療法に繋がる研究に打ち込める日を楽しみにしています。



集団の健康を考える

社会医学コース／公衆衛生学教室（令和4年度入学）

若狭 はな（わかさ はな）

看護学生として患者さんにかかわるうちに、社会全体の健康を考えたいと思うようになり大学院に進学しました。修士課程で学んでいく中で、さらに掘り下げて研究したいと思ったのが、博士課程への進学を決めたきっかけです。

今は、地域に住んでいる方のどんな生活習慣がどんな健康状態に影響を及ぼすのかについて研究しています。実際に地域で生活を営む方々を対象にしているため、思った通りの結果がでないこともありますが、日々PCとにらめっこしながら、時には地域に出かけながら、少しでも健康のためのヒントをつかめないと奮闘する日々です。研究の成果が少しでも地域や社会のためになればと思っています。

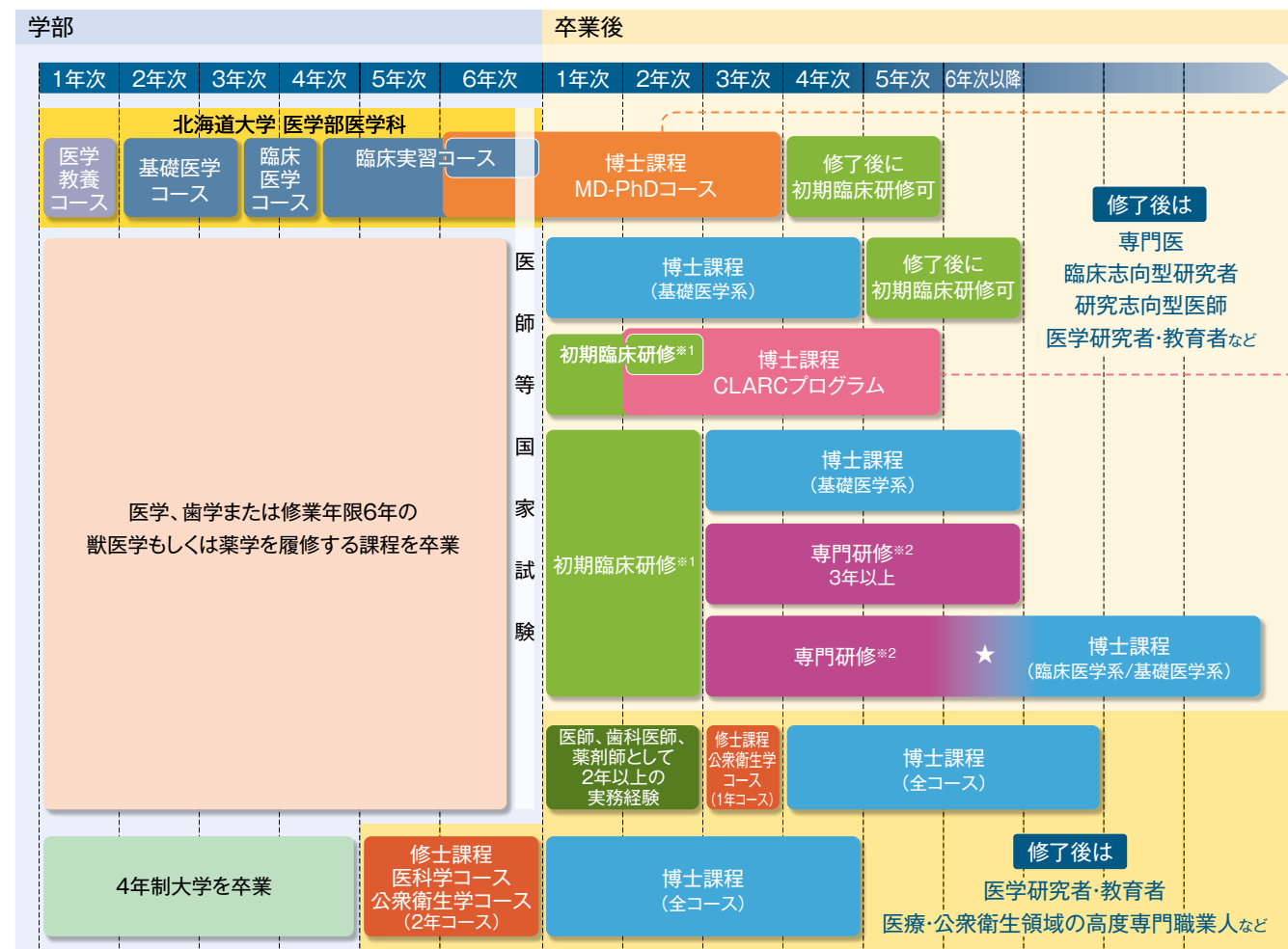


博士課程の概要

プログラム紹介

医学科生が選択できるプログラムを紹介します。

履修モデル



※1 初期臨床研修を修了していなければ診療に従事することはできません(医師法第16条)
 ※2 新専門医制度(平成30年4月開始)による専門研修専攻例。研修の期間・内容は、基本領域(内科や外科など19領域)ごとに定められた専門研修プログラムにより異なります。
 専門医になるためには専門研修を修了する必要があります
 ★ 専門研修最終年に博士課程の履修を開始する例

一歩早く 基礎研究者へ

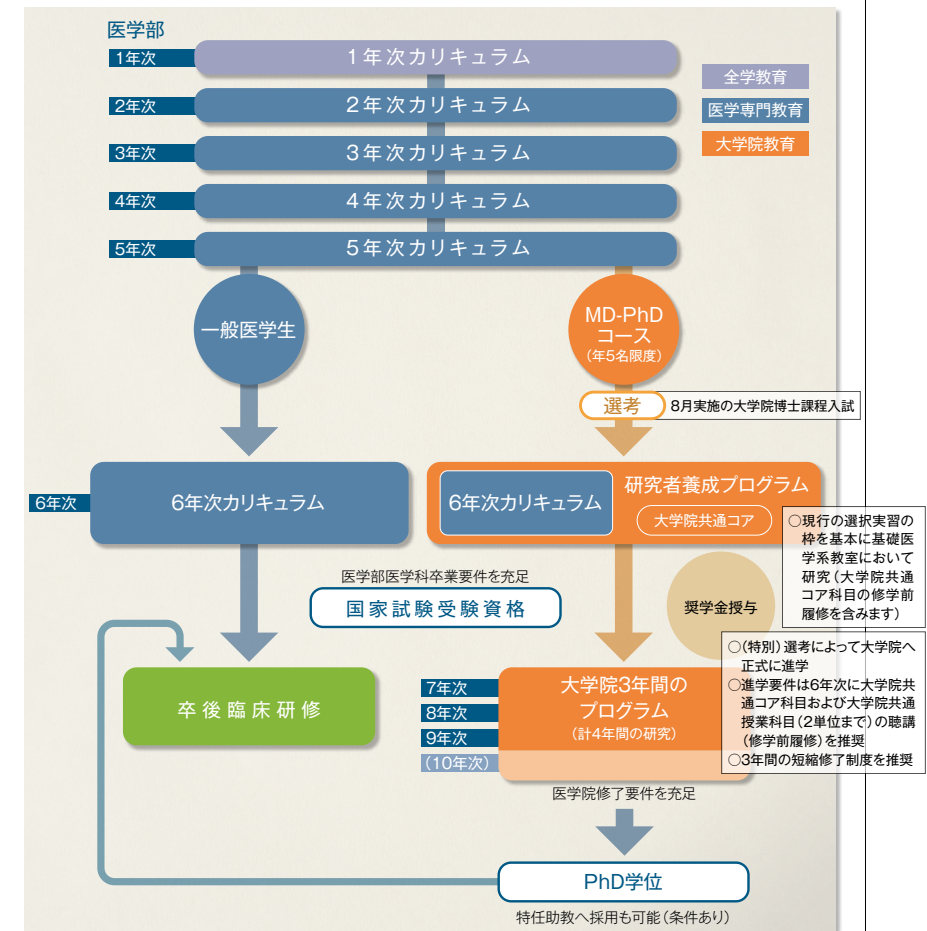
北海道大学医学部医学科生対象

研究者養成プログラム (MD-PhDコース)

医学研究を志向する医学科学生に対し、早期に研究の機会にふれ、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手研究者(基礎医学分野)を養成することを目的としたこのコースは、**医学科6年次に在籍してそのカリキュラムを履修しながら、大学院博士課程必修科目(共通コア科目8単位)および大学院共通授業科目(2単位まで)を履修することができます。**医学科5年次・6年次に(特別)選考が実施され、原則として返還の必要のない奨学金(大学院博士課程の入学検定料、入学科および大学院入学後計3年間の授業料相当分、所属教室には6年次の履修に係る経費の助成を目的とした支援金)が給付されます。

特 徴

- 医学部卒業年度は同期生と一緒に(医師国家試験受験可能)
- 入学科・授業料相当分の奨学金給付
- PhD取得後、卒後臨床研修も可能
- 優れた研究実績をあげた方を、特任助教に採用(条件あり)



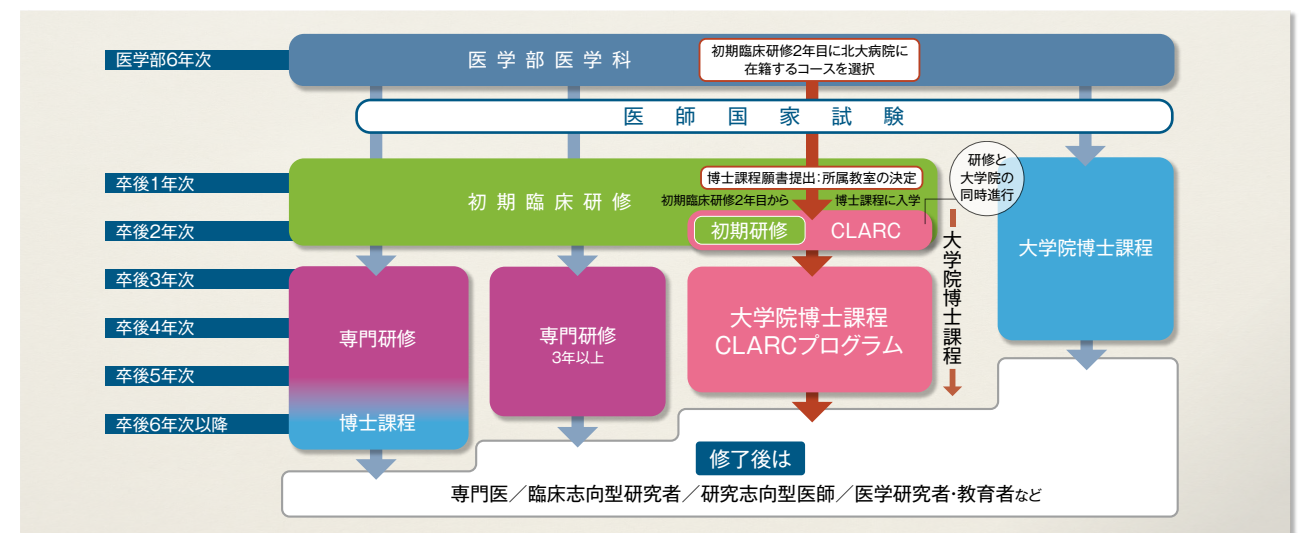
一歩早く 臨床志向型研究者へ

一歩早く 研究志向型医師へ

初期臨床研修医対象

CLARCプログラム CLinic And Research Combination

CLARCプログラムは、臨床研修2年目に大学院に入学し、臨床研修と大学院での学修を並行して行えるプログラムです。あくまでも臨床研修を主体とし、平日の17時以降に大学院の講義・研究指導を受けけます。このプログラムを選択するためには北海道大学病院の卒後研修プログラムのうち、2年目に北海道大学病院に在籍する研修コースを選択します。地域医療など大学病院外で研修する期間は一時大学院での履修を中断できるので、安心して研修に従事できます(※なお、研修科との調整が必要となります)。また、基礎系教室の教員も指導教員として選択できます。



小樽商科大学との大学院連携によるMBA特別コース

医学・生命科学研究と専門職実務の架橋を実践し、社会に有為な人材を早期に養成することを目的としたこのコースでは、通常、修業年限が2年間である経営管理修士(MBA)の学位取得に必要な科目を、北大医学院博士課程3年次に科目等履修生として単位修得することにより、小樽商科大学入学後に1年間の在籍期間で残りの必要科目を単位修得し、修了することが可能です。

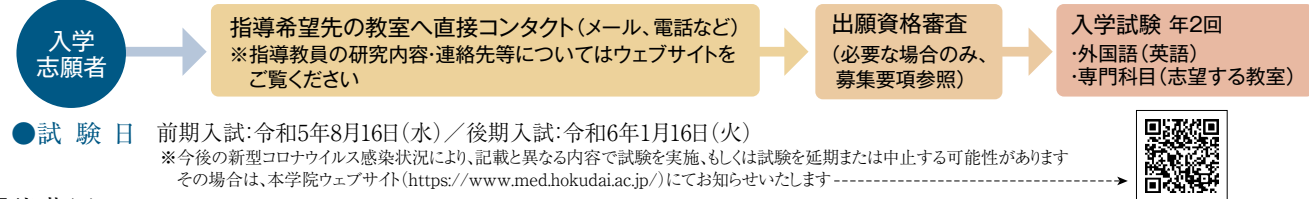


博士課程に入るには

入試について

- **募集人員** 医学専攻90名(社会人若干名を含む)
- **出願資格** 大学における医学、歯学または修業年限6年の獣医学もしくは薬学を履修する課程を卒業した方、または修士課程を修了した方等
- **出願期間** 前期入試: 令和5年 7 月10日(月) から令和5年 7 月13日(木)まで
後期入試: 令和5年11月17日(金) から令和5年11月22日(水)まで
受付時間: 午前9時から午後5時まで。出願期間内必着のこと

入試・選考の概要



諸費用

- **入学検定料***: 30,000円
 - **入学科***: 282,000円
 - **授業料***: 535,800円(年額)
- (入学科、授業料は予定額です)
*本学大学院修士課程修了見込の方で、引き続き本学院博士課程へ入学する場合または国費外国人留学生(文部科学省奨学金受給者)は不要です。願書提出の際、必ずその旨を申し出てください

◎詳細は大学院学生募集要項で確認してください

顕彰・奨学金制度等について

顕彰制度

● 医学院

- **優 秀 論 文 賞** 優れた論文を発表した学生に優秀論文賞および副賞(10万円相当)を授与します。
- **高桑築松奨学金** 優れた業績をあげた若手研究者(大学院生を含む)に対する奨励賞(8～10万円(3～4名))を授与します。
- **HIROKOの国際学術交流基金** 海外の大学または研究機関において、がん研究を行い帰国する研究者(申請時の年齢が満35歳以下)へ研究奨励費(原則1人あたり100万円、1年度に2名の範囲)を支給します。
- **北海道大学** 本学における男女参画事業の一環として、研究者を目指す優秀な女子学生育成のために設立。大学院博士課程(博士後期課程および博士一貫)最終年次学生(原則として留年者を除く)で、研究者を目指し、当該年度内に修了予定の優秀な女子学生に対して、奨励金(30万円)を給付します。

奨学金制度

● 医学院

- **音羽博次奨学基金** 学業・人物ともに優秀な学生および外国人留学生に奨学金(15万円(各10名以内))を授与します。

● 北海道大学

- **北海道大学アンビシャス博士人材フェローシップ(SDGs)** 持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals「SDGs」)の達成に対して、研究領域を問わず取り組むために、優秀な学生を支援経費等(研究専念支援金月額15万円、研究費年額40万円: 令和5年度支給額)により支援します。
URL : <https://sites.google.com/elms.hokudai.ac.jp/ambitious-phd-fellow/home>
- **北海道大学DX博士人材フェローシップ** 我が国の科学技術・イノベーションを進展させ、重要課題を創造的に解決して未来を拓く力量を持つ卓越した博士人材を育成することを目的とし、採択者には研究奨励費月額15万円、研究費40万円(令和5年度支給額)が支給されます。
URL : <https://sites.google.com/eis.hokudai.ac.jp/dxphd-fellow/home#h.8gvmu8x9j0xs>

● その他

- **日本学生支援機構の制度** 最も一般的な奨学金を貸与する制度。第一種奨学金(無利息)と第二種奨学金(利息付)があります。
※詳細は同機構のウェブサイトをご覧ください
- **武田科学振興財団医学部博士課程奨学金** わが国の生命科学分野、特に疾病の予防・診断・治療の進歩・発展に貢献するため、医学部医学科出身の基礎医学研究を希望する博士課程の大学院生に奨学金を支給する制度です。医学部医学科出身で、博士課程に進学して基礎系教室に所属する予定の方に対して、年額360万円の奨学金が給付されます。※採用には年齢および収入などの条件があります

日本学術振興会

- **特 別 研 究 員** わが国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的として、大学院博士課程在学者(DC1、DC2)および大学院博士課程修了者(PD、RPD)等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する方を、日本学術振興会が「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。本医学院ではDC1に2名、DC2に2名が特別研究員として在籍しています(令和5年4月1日現在)。

区 分	採用期間	研究奨励金(支給予定額)	研究費(科学研究費助成事業)
DC1	3年間	月額20万円	毎年度150万円以内
DC2	2年間	〃	〃
PD/RPD	3年間	月額36万2千円	〃

※詳細は日本学術振興会ウェブサイトをご覧ください (TOP>事業のご案内>人材育成事業>特別研究員)

リサーチ・アシスタント(RA) / ティーチング・フェロー(TF) / ティーチング・アシスタント(TA)

● リサーチ・アシスタント(RA)

医学研究院で行われている研究プロジェクト等で、博士課程に在籍する学生に研究補助者として参加してもらい、研究体制を充実させるとともに、若手研究者の研究遂行能力の育成を図る制度です。入学後に優れた研究業績をあげた学生に対し、その業績に応じて採用します。採用者には勤務実績に応じ年間約50万円が給与として支給されております。

● ティーチング・フェロー(TF)

大学院教育の一環として位置づけられている制度で、TF(TA業務に従事した経験を有する)として採用された博士課程学生に教員と分担しながら主に医学部医学科で展開されている授業科目を担う機会を提供するものです。担当する授業科目により異なりますが、採用者には勤務実績に応じ年間約8～12万円が給与として支給されております。

● ティーチング・アシスタント(TA)

主に医学部医学科で展開されている授業科目の教育補助業務を行うことにより、大学院生の経済的支援および将来、教員・研究者になるためのトレーニングの機会提供、大学教育の充実を目的とした制度です。担当する授業科目により異なりますが、採用者には勤務実績に応じ年間約7～10万円が給与として支給されております。

国際交流

北海道大学大学院医学院は、研究者の交流や共同研究を通じて国際化を図っています。国際交流事業の一つとして、国際交流基金を設けて外国人研究者の招へい・受け入れに関わる援助や補助、若手研究者の派遣・育成、留学生の奨学援助・補助を行っています。

医学教育・国際交流推進センター 国際連携部門

留学生のサポート

医学院には博士課程と修士課程とを合わせて、10カ国62名(令和5年4月現在)の留学生が在籍しています。留学生が安心して学べる環境を整えるために、国際連携部門には常勤スタッフと留学生サポートスタッフがいて、留学生を学術・生活の両面からサポートしています。



国際連携部門

詳細は国際連携部門のウェブサイトをご覧ください
URL <https://edu.med.hokudai.ac.jp/international-relations/>

医学院における外国人留学生数

(令和5年4月1日現在)

● 国・地域別

地域	国 名	人数
アジア59人	シンガポール共和国	1
	台湾	1
	中華人民共和国	53
	バングラデシュ人民共和国	1
	フィリピン共和国	1
	ベトナム社会主義共和国	1
中南米1人	マレーシア	1
	アルゼンチン共和国	1
	シリア・アラブ共和国	1
	トルコ共和国	1
中東2人	合 計	62
	外国人学生数(「留学」以外)	3

● 所属別

()内は女子で内数

修士課程	博士課程
14 (12)	48 (24)

● 経費別

()内は女子で内数

国費留学生	私費留学生	外国政府派遣留学生	合 計
4 (2)	57 (33)	1 (1)	62 (36)
外国人学生数(「留学」以外)	3 (1)		
留学生および外国人学生総数	65 (37)		

MESSAGE

博士課程在籍 留学生からのメッセージ

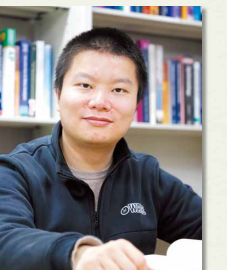
統計知識で医学研究の道を切り拓く

社会医学コース / 医学統計学教室(令和2年度入学) [中華人民共和国]

楊 一 馳 (ヤン イチ)

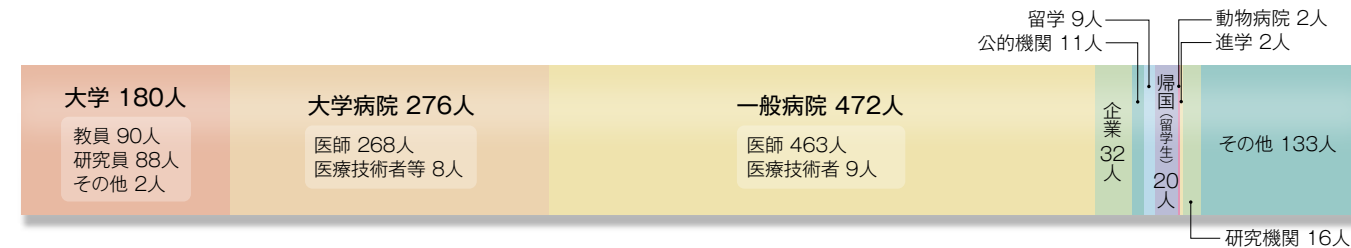
予防医学専攻出身の私は大学生の頃から医学また公衆衛生領域における統計方法に興味津々です。修士コースで感染症モデリングについて研究した末、方法論の数理統計的背景に益々関心が強まってきました。博士課程に進学する時、医学統計方法論を究める道を選び、医学統計学教室に入学させて頂きました。

横田先生のご指導のもとで、北海道大学病院呼吸器内科の臨床家先生方々が収集された喘息コホート研究データの分析をさせて頂きました。これをきっかけにして、現在の研究テーマ「繰り返しイベントの生存時間解析におけるジョイントモデル」にたどり着きました。巨人の肩の上に立つつもりで、今まで開発改進黨されたモデルを喘息患者の気道機能データに向けて更に改善し、喘息の予防また喘息増悪の予測方法を提案したいと思います。微力ですが、引き続き統計知識をもって医療データを正確かつ効率的に解釈し、医学研究の道を切り開きたいと存じます。



博士課程修了者就職先（平成19年度～令和3年度/修了者数合計1153人）

修了者の半数以上は一般病院や大学病院で医師や医療従事者として勤務しています。
次いで大学や企業等の研究員・研究職が多くを占めています。



MESSAGE 博士課程修了者からのメッセージ

学び直しのすすめ

腎泌尿器外科学教室（令和元年度修了）
JCHO札幌北辰病院 泌尿器科医師
西村 陽子（にしむら ようこ）



私は臨床医として10年ほど“診断と治療”を中心に勤務してきましたが、自身の不妊治療・妊娠を通じて子供の病気の“予防”こそ世のお母さん達が求めているものではないかと考え大学院に進学しました。進学時すでに35歳を超えており高齢の子連れ大学院生で不安も強かったのですが、周囲の温かい理解と支えもあり、「胎児期における内分泌攪乱化学物質曝露が性分化へ与える影響」をテーマに疫学研究に従事させて頂きました。

大学院修了後は関連病院で勤務しながら客員研究員として週末に研究を行っております。仕事と育児に加え研究を続けることは大変ですが、やはり楽しいです。また疫学の視点を得たことで“疾患予防”を日々の診療にも取り入れております。実務を経験した社会人が問題意識を持って学び直すことは自身の成長のみならず社会が直面する課題の解決にも寄与すると思います。年齢や出身分野に関わらず多くの方が新たな一歩を踏み出されることを願っております。

MESSAGE 博士課程 MD-PhDコース修了者からのメッセージ

Medical Doctor “&” Doctor of Philosophy

細胞生理学教室（令和元年度修了）
北海道大学大学院医学研究院 細胞生理学教室助教
柏木 彩花（かしわぎ さやか）



私は細胞生理学教室（大場雄介教授）に所属し、令和2年3月に北大医学院のMD-PhDコースを修了しました。同年4月からは同教室の教員として、研究と教育に従事しています。

私は小さい頃から科学一般に興味があり、将来は大学院に進学するつもりで、総合理系の枠で北大に入学しました。このため私にとってMD-PhDコースは理想的な制度であり、医学科に進学を決めるきっかけとなりました。

私が所属している教室では、生命の基本単位である『細胞』を対象として、その動作原理を構成的に解き明かすことをテーマとしています。私は現在、物質の取り込みや細胞内輸送といった細胞機能に対し、種々のイオンが与える影響を調べています。私は、MD-PhDコースを経て基礎研究に進むことの強みは「一連の医学教育を受けられること」だと思っています。個々の臓器や人体がいかにして動作するのかを学べることはもちろん、臨床実習で得られる貴重な経験は、研究を続けていく上での強いモチベーションとなるでしょう。

●管理棟



正面上部三角破風にあるレリーフは、大正時代の医学部建造物の歴史を引き継いでいます。正面玄関は、フラテ会館への入り口にもなっています。教務事務室は1階右手廊下沿いにあります。

●医学部学友会館「フラテ」



医学部創立90周年記念事業により建設され、平成22年に完成。280名収容のホール、特別会議室、大研修室などがあり、学術講演会、式典などの催しに利用されています。

●医学部百年記念館



医学部創立100周年記念事業の一環として建設され、令和元年に竣工。講演会や会議、同窓会行事など多目的に利用されています。

●臨床講義棟



医学院棟と北海道大学病院の建物に囲まれた位置にあり、両側から行き来できる通路があります。1階に二つの中講堂、2階には大講堂があり、大学院の必修講義は主に2階の大講堂で行われています。学生の授業のほか、学術講演会や各種式典などにも利用されています。

●医歯学総合研究棟



医学および歯学の2部局が運営する施設。地下1階から地上9階建ての建物には2部局共に利用可能な学生実習室、解剖実習室、動物実験室、オープンラボ、中央研究部門などがあります。建物は医学院の南側にあり、南研究棟と内部通路でつながっています。

●医系多職種連携教育研究棟



医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の医療関連職種の学生と職員が共に学ぶ「多職種連携教育」の推進を目的とする施設です。ここには、クリニカルシミュレーションセンターのほか、医療イノベーションセンター等を設置しています。

●大学院医学研究院・大学院医学院・医学部図書館



医学系の専門書を中心に、雑誌を含めておよそ15万冊の蔵書があります。1階は閲覧室および書庫、2階は自習室とパソコン室、3階には主に学部生の講義が行われている講義室が2室あります。
〈開館時間〉平日9:00～22:00
※長期休業期間中は9:00～17:00

●医学部食堂



メニュー数約70品、席数120席前後。売店も併設し、文具・食品から白衣・実習着なども購入できます。
〈営業時間〉
・食堂部 平日11:00～14:00 土日祝 休み
・購買部 平日11:00～14:00 土日祝 休み

マップ／交通案内



交通のご案内

J	R
●札幌駅下車	徒歩約20分
バス	
●札幌駅北口バスのりばから乗車	
中央バス屯田線 01-03-04	
北大病院前下車	徒歩約3分

地下鉄	
●南北線北12条駅下車	徒歩約10分
●南北線北18条駅下車	徒歩約10分
●東豊線北13条東駅下車	徒歩約15分

新千歳空港～札幌駅	
●JR利用	約40分
●バス利用	約80分



北海道大学大学院医学院 博士課程案内 2023

U R L

<https://www.med.hokudai.ac.jp>



お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課医学院教務担当

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

Tel: 011-706-5018/5019 Fax: 011-717-5286 Email: d-tanto@med.hokudai.ac.jp